

令 地	和 域	7 年	度 医	2 療	回 構	木 想	曾 調	医 整	療 会	圏 議	資料 3
令	和	8	年	2	月	5	日				

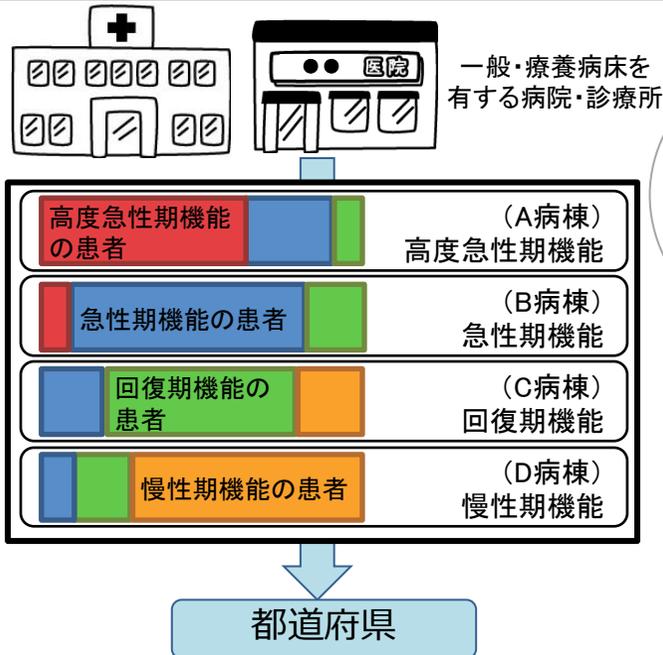
地域医療構想の推進について

現行の地域医療構想について（概要）

- 地域医療構想は、団塊の世代が75歳以上となり医療ニーズが増大・変化する2025年に向け、中長期的な人口構造や地域の医療ニーズの質・量の変化を見据え、医療機関の機能分化・連携を進め、良質かつ適切な医療を効率的に提供できる体制の確保を目的とするもの。
- 上記を踏まえ、各都道府県において、
 - ・ 2025年の医療需要と機能別（高度急性期、急性期、回復期、慢性期）の病床数の必要量の推計値
 - ・ 在宅医療等について、自宅や介護施設等に対応可能との仮定のもと必要量を推計
 - ・ 目指すべき医療提供体制を実現するための施策
 を「地域医療構想」として策定し、地域の関係者間の協議に基づく医療機関の自主的な取組によって、病床の機能分化・連携を推進してきた。（本県では、平成28年度に地域医療構想を策定）

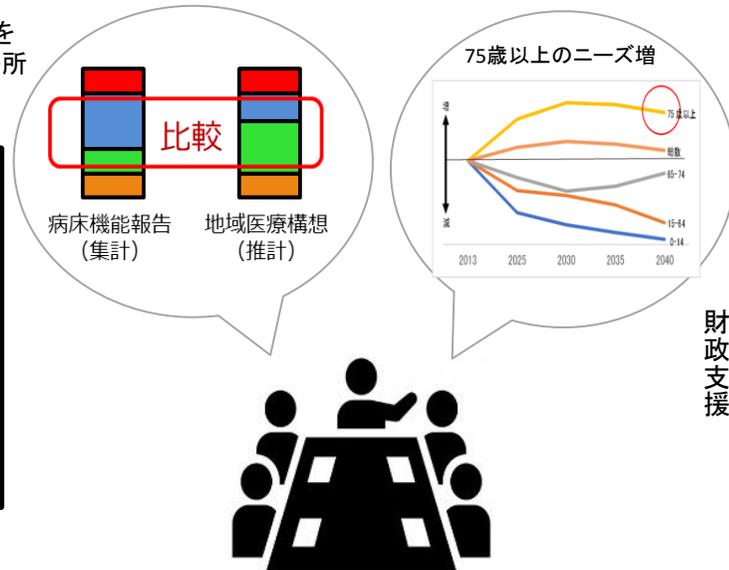
地域医療構想の推進の仕組み

1. 病床機能報告制度



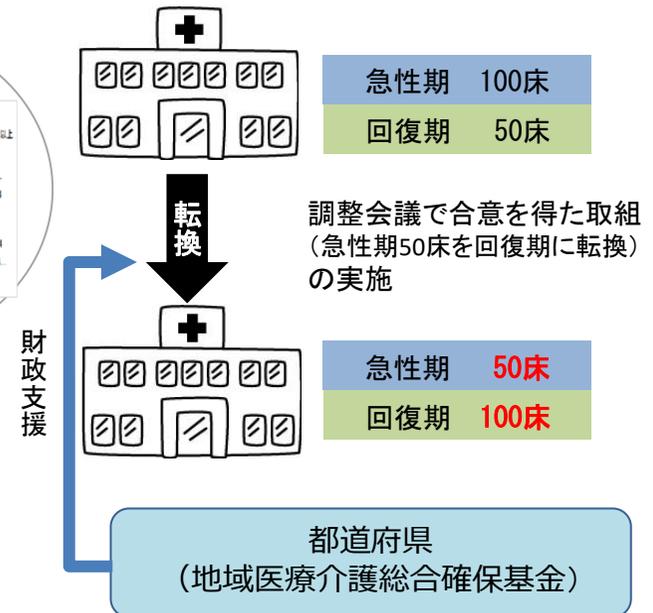
○各医療機関から都道府県に対し、現在の病床機能と今後の方向性等を「病床機能報告」により報告。

2. 地域医療構想調整会議の協議



○各構想区域に設置された「地域医療構想調整会議」において、病床の機能分化・連携に向けた協議を実施。

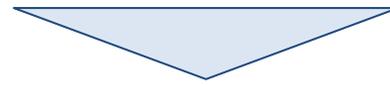
3. 自主的な機能転換等の取組



○都道府県は「地域医療介護総合確保基金」を活用し、医療機関の機能分化・連携を支援。

本日の内容

- 現行の地域医療構想に関するご意見として、
 - ・ データに基づく議論が必要
 - ・ 県には地域の医療の実態がわかるデータを出してほしい
という意見をいただいたところ。



- ◆ 地域の医療提供体制を表すデータの一例として、入院・外来のそれぞれの受療率※等の経年の推移を分析した内容を共有。
- ◆ 今回は一例として受療率であるが、今後県としてデータ分析体制を強化していく中で、どのようなデータ提示が必要なのか等について、ご意見いただきたい。

※受療率

推計患者数を人口10万対であらわした数

受療率（人口10万対）＝推計患者数/推計人口×100,000

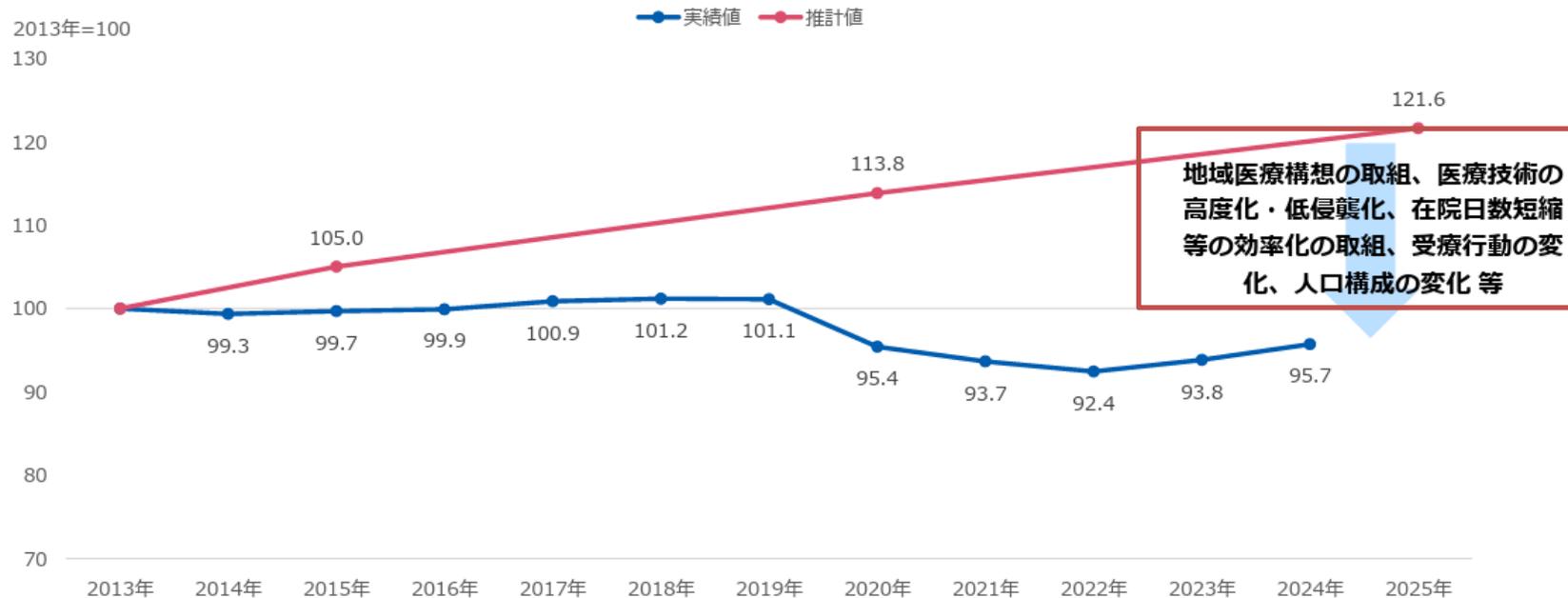
入院患者数の推計と実績について（全国）

現行の地域医療構想策定当時に推計していた入院患者数とこれまでの実際の入院患者数（実績値）を比較すると、増加すると見通されていた入院患者数は、さまざまな要因の結果、増加しなかったことが国の検討会で示された。

厚生労働省検討会資料抜粋

- 現行の地域医療構想策定当時に、**年齢階級ごとの医療需要及び医療提供が変わらないと仮定して推計した入院患者数（改革モデル反映前の現状投影）**と、これまでの実際の入院患者数（実績値）を比較すると、2025年まで増加すると推計されたが、実際には地域医療構想策定以降、地域医療構想の取組の推進等により、減少している。

入院患者数の実績値と推計値（現状投影）を2013年の実績を100とした時の指標の推移



資料出所：（実績値）厚生労働省「病院報告」

（推計値）2013年度NDBデータ、総務省「住民基本台帳人口」（2014年）、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」（2013年推計）を基に、厚生労働省医政局地域医療計画課において推計。

※2013年推計において福島県は市町村別に将来推計人口が公表されていないため、全国推計は福島県推計と、福島県を除く現行の二次医療圏（324）別推計の合計値としている。

※入院患者数は一般病床及び療養病床（介護療養病床を除く）に入院する者に限る。なお、病院報告については病院の1日平均在院患者数であり、有床診療所の患者数を含まない。

34

推計患者数及び受療率（人口10万対）の推移（県全体）

長野県の患者数及び受療率の推移をみると、入院患者数・外来患者数ともに減少傾向である。受療率※は、入院受療率においては減少傾向があるが、外来受療率はほぼ横ばいの状況である。

※ 受療率は、ある特定の日に疾病治療のために、すべての医療施設に入院あるいは通院を受けた人口10万人当たりの患者数。厚生労働省が行う「患者調査」により全国推計患者数を把握し、算出される。

年	患者数（人）			受療率（人口10万対）					
				長野県			全国（参考）		
	入院	外来	計	入院	外来	計	入院	外来	計
2008	21,000	112,200	133,200	969	5,168	6,137	1,090	5,376	6,466
2011	19,700	110,600	130,300	920	5,162	6,082	1,068	5,784	6,852
2014	20,400	108,000	128,400	970	5,122	6,092	1,038	5,696	6,734
2017	19,400	104,500	123,900	935	5,033	5,968	1,036	5,675	6,711
2020	18,300	105,200	123,500	895	5,139	6,034	960	5,658	6,618
2023	17,600	105,500	123,100	879	5,201	6,080	945	5,850	6,795

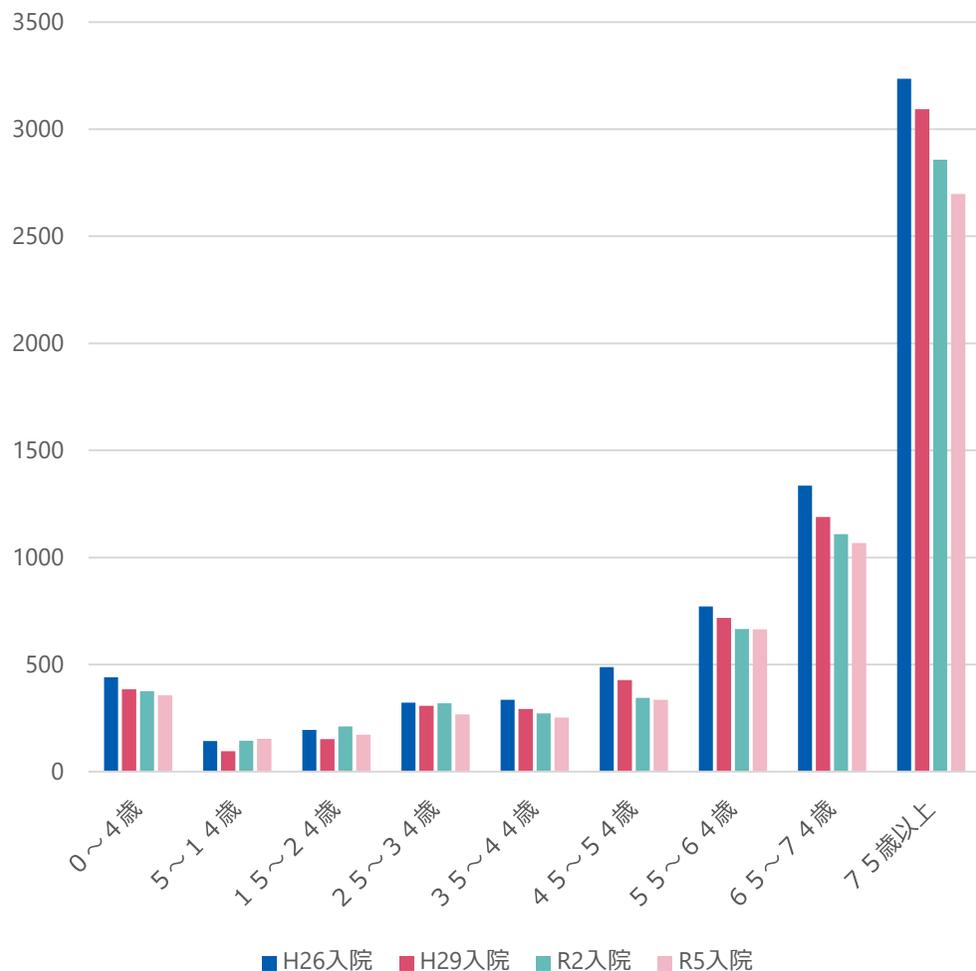
（注）計については、入院及び外来の患者数及び受療率を単純合計したもの。

（厚生労働省「患者調査」）

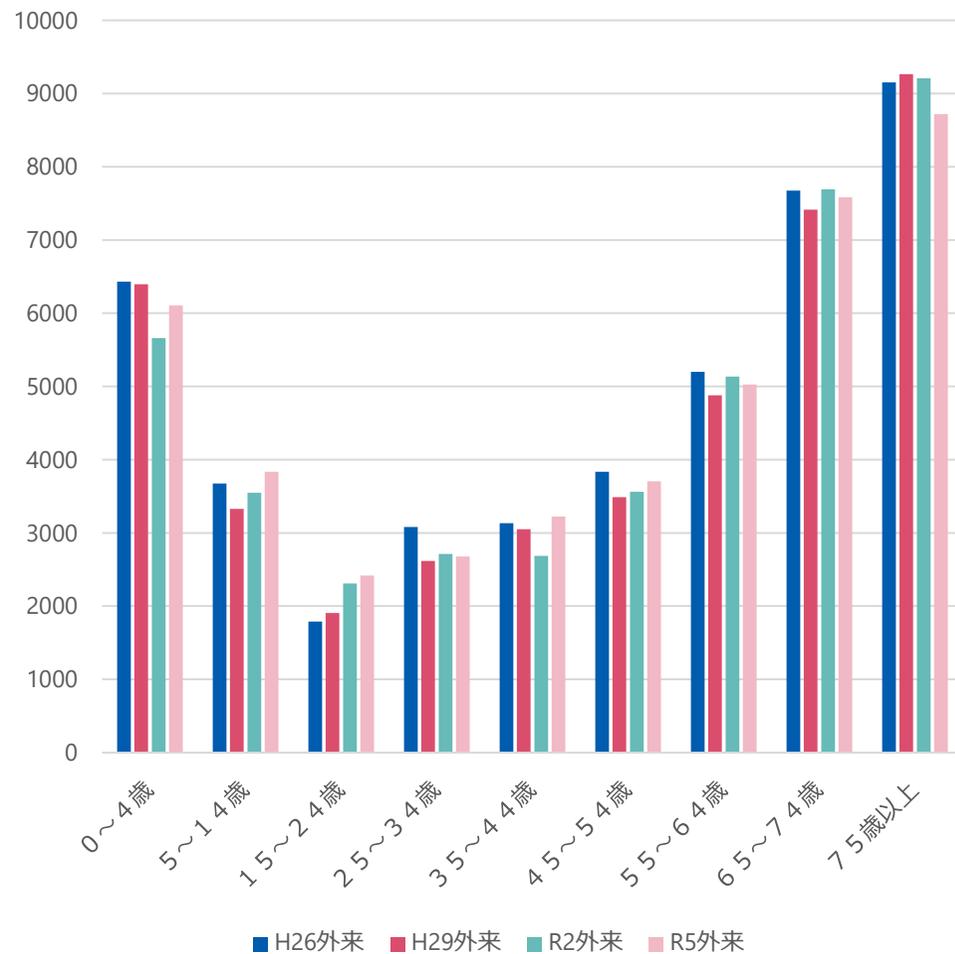
年齢階級別受療率（人口10万対）の推移（県全体）

年齢階級別受療率（入院・外来）の経年の推移については以下のとおり。特に、入院の受療率では、75才以上の受療率が減少している。

年齢階級別 入院 受療率

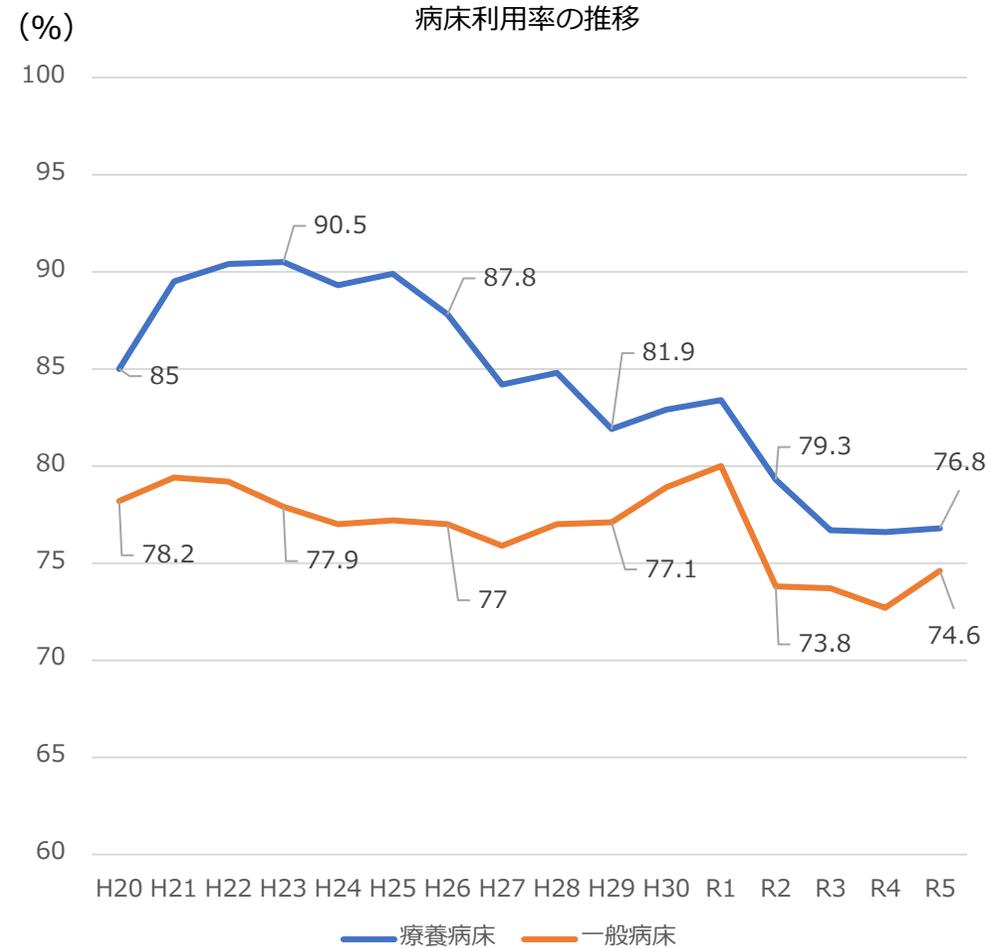
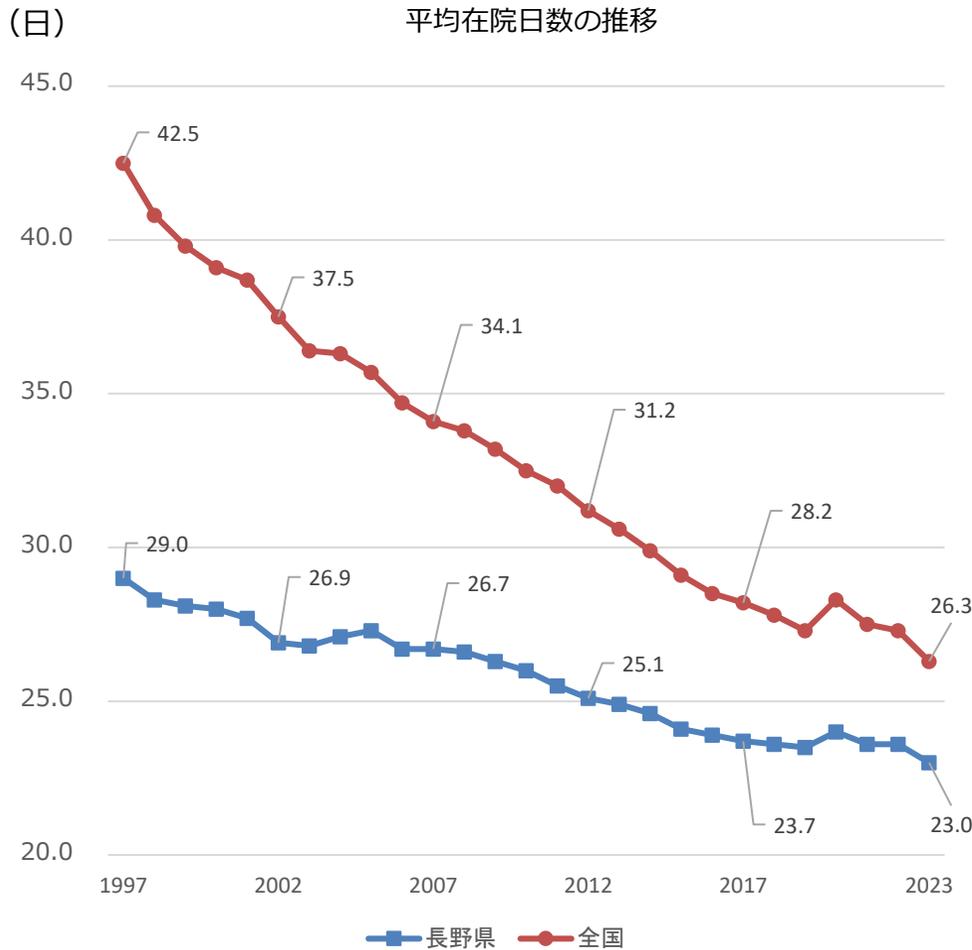


年齢階級別 外来 受療率



【参考】平均在院日数及び病床利用率の推移（県全体）

平均在院日数は短縮傾向にあり、病床利用率は、コロナ禍以降においても、一般病床も療養病床も低下傾向にある。



入院・外来における患者数の将来推計（県全体）

患者数の将来推計は、将来推計人口と受療率を掛け合わせることで算出するため、受療率の変化は患者数の将来推計に影響を与えるものであり、受療率が変化している観点から入院・外来における患者数の将来推計を試みた（※）ところ、その結果は以下のとおり。

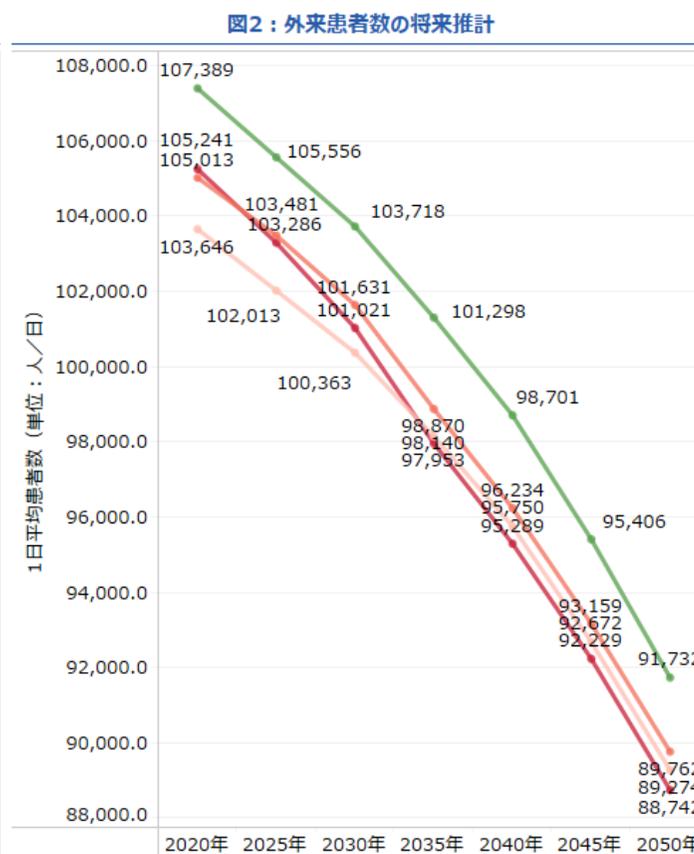
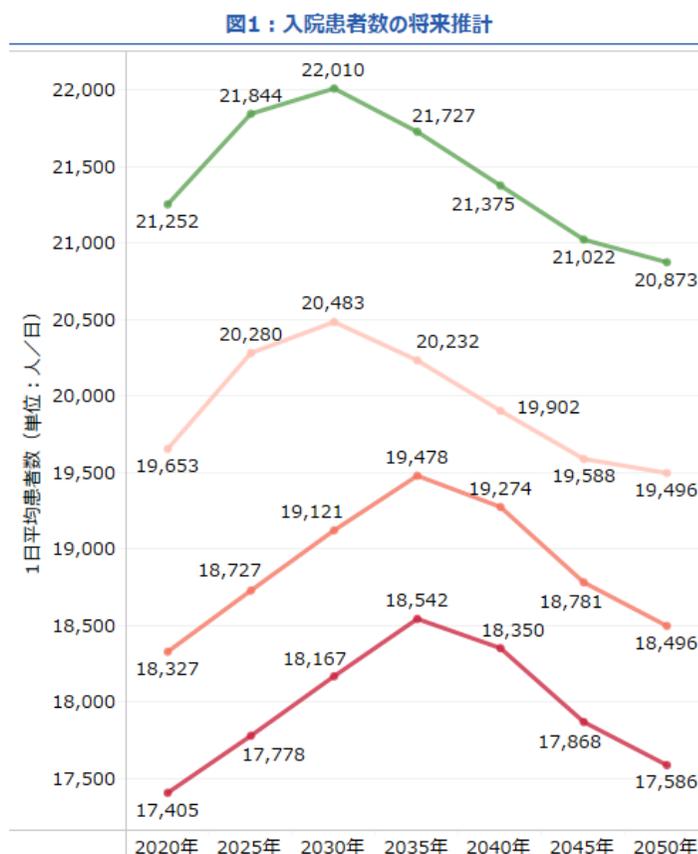
（※）2014年、2017年、2020年、2023年の性年齢別受療率を基に2020年時点の性年齢別人口を基準として入院患者数の将来推計を試算

【入院】

・入院受療率が各年で変化することから、推計患者数も年度ごとに変動する。現時点で最新の2023年受療率を用いた値が最も患者数が減少する推計となる。

【外来】

・外来受療率に大きな変動がないため、入院患者数の推計と異なり、外来患者数の推計は、ほぼ差がない。



出典：「日本の地域別将来推計人口（令和5年推計）」（国立社会保障・人口問題研究所）及び患者調査（厚生労働省）を用いて推計

傷病分類別の入院受療状況の変化（県全体）

以下、傷病分類ごとに1日あたりの平均患者数を算出したところ、

- 一部の疾患を除き2014年の受療率を使用した推計患者数より2023年の受療率を使用した推計患者数が減少している。
- 主な患者数が減少している疾患や考えられる要因は以下のとおりであり、それぞれ複合的な取り組みにより変動が生じていると考えられる。

新生物<腫瘍>・・・化学療法の外来移行、医療技術の高度化など

眼及び付属器の疾患・・・白内障手術の外来移行など

循環器系の疾患・・・脳血管疾患領域に対するリハビリの強化による在院日数の短縮化など

妊娠、分娩及び産褥・・・同年代の出生数の減少等

ICD分類	1日平均患者数（単位：人／日）			
	2014年度	2017年度	2020年度	2023年度
I 感染症及び寄生虫症	556	582	483	390
II 新生物<腫瘍>	6,754	6,545	5,747	5,340
III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	160	204	186	136
IV 内分泌、栄養及び代謝疾患	814	879	763	820
V 精神及び行動の障害	8,402	7,455	6,854	6,586
VI 神経系の疾患	1,812	1,629	1,880	1,606
VII 眼及び付属器の疾患	690	281	348	221
VIII 耳及び乳様突起の疾患	100	119	104	93
IX 循環器系の疾患	11,231	11,010	8,587	7,604
X 呼吸器系の疾患	3,434	3,085	2,682	2,763
X I 消化器系の疾患	2,129	2,049	1,852	1,903
X II 皮膚及び皮下組織の疾患	188	205	130	145
X III 筋骨格系及び結合組織の疾患	2,318	2,252	2,475	2,577
X IV 腎尿路生殖器系の疾患	1,483	1,449	1,406	1,537
X V 妊娠、分娩及び産じょく	554	533	603	310
X VI 周産期に発生した病態	97	121	120	110
X VII 先天奇形、変形及び染色体異常	122	70	139	115
X VIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	177	156	124	136
X IX 損傷、中毒及びその他の外因の影響	4,373	3,669	3,899	3,745
X X I 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	314	314	307	150
X X II 特殊目的用コード			16	419

(参考) 傷病名別の入院受療状況の変化【詳細】 (県全体)

ICD分類	傷病名	1日平均患者数 (単位: 人/日)				ICD分類	傷病名	1日平均患者数 (単位: 人/日)			
		2014年度	2017年度	2020年度	2023年度			2014年度	2017年度	2020年度	2023年度
I 感染症及び寄生虫症	-	279.1	291.6	242.8	194.7	X 呼吸器系の疾患	-	1,716.5	1,543.9	1,342.6	1,382.4
	その他の感染症及び寄生虫症	137.4	149.7	120.8	96.6		その他の呼吸器系の疾患	891.1	831.3	712.5	803.9
	結核	34.3	35.1	22.2	25.0		気管支炎及び慢性閉塞性肺疾患	97.5	76.0	95.6	91.2
	真菌症	12.1	16.3	23.2	17.0		急性気管支炎及び急性細気管支炎	56.1	42.0	13.3	7.5
	腸管感染症	78.8	67.4	49.1	41.4		急性上気道感染症	20.7	15.6	22.3	11.6
	皮膚及び粘膜の病変を伴うウイルス感染症	13.8	22.1	25.3	15.3		肺炎	598.0	521.6	477.5	441.2
II 新生物<腫瘍>	-	2,332.4	2,272.5	2,002.2	1,860.7	喘息	54.0	55.0	17.9	25.7	
	(悪性新生物<腫瘍>) (再発)	2,088.1	2,002.9	1,746.2	1,623.4	X I 消化器系の疾患	1,066.3	1,024.6	925.1	952.2	
	その他の悪性新生物<腫瘍>	1,322.9	1,270.7	1,173.1	1,047.0	-	2.1	0.0	0.0	0.0	
	胃の悪性新生物<腫瘍>	221.0	174.7	159.2	121.7	う蝕	11.9	5.3	10.2	38.1	
	気管、気管支及び肺の悪性新生物	282.2	255.1	163.7	180.2	その他の歯及び歯の支持組織の障害	879.5	810.0	774.7	763.7	
	結腸及び直腸の悪性新生物<腫瘍>	262.8	300.5	245.9	275.6	その他の消化器系の疾患	7.7	10.4	4.8	19.1	
III 血液及び血管系の疾患並びに免疫機構の障害	-	79.2	102.3	93.0	68.5	胃炎及び十二指腸炎	53.4	74.2	46.7	32.5	
	その他の血液及び血管系の疾患	35.9	40.1	46.4	35.1	胃潰瘍及び十二指腸潰瘍	106.1	114.9	88.2	93.5	
	貧血	44.7	61.6	46.6	32.0	肝疾患	1.5	9.8	2.5	3.9	
IV 内分泌、栄養及び代謝疾患	-	405.9	441.4	383.5	411.2	歯肉炎及び歯周疾患	187.5	204.9	130.0	144.6	
	その他の内分泌、栄養及び代謝疾患	172.7	229.3	212.6	256.9	X II 皮膚及び皮下組織の疾患	1,162.8	1,127.1	1,235.9	1,289.1	
	甲状腺障害	11.1	7.8	17.3	10.4	-	595.6	637.6	772.9	829.9	
	脂質異常症	-	0.0	3.2	0.0	その他の筋骨格系及び結合組織の疾患	69.8	62.0	61.1	74.0	
VI 神経系の疾患	-	1,812.0	1,629.0	1,879.7	1,606.2	炎症性多発性関節障害	42.4	53.0	61.5	28.4	
	その他の神経系の疾患	224.6	200.2	146.7	141.1	骨の密度及び構造の障害	447.9	372.3	343.3	356.0	
VII 眼及び付属器の疾患	-	345.9	141.3	173.9	110.5	脊柱障害	742.1	725.1	702.7	767.9	
	その他の眼及び付属器の疾患	136.4	64.7	57.5	42.1	X IV 腎尿路生殖器系の疾患	208.5	200.0	240.6	297.3	
VIII 耳及び乳突突起の疾患	-	49.2	59.8	51.9	46.6	その他の腎尿路生殖器系の疾患	504.0	485.7	448.0	449.6	
	その他の耳疾患	19.5	9.9	15.3	23.4	糸球体疾患、腎臓細管間質性疾患及び慢性腎臓病	28.7	38.2	15.0	22.3	
	その他の中耳及び乳突突起の疾患	2.6	2.6	4.4	0.0	X V 妊娠、分娩及び産後	277.2	266.3	301.9	155.0	
	外耳疾患	0.0	4.0	0.0	0.0	-	166.3	185.5	158.6	96.6	
	中耳炎	1.7	6.2	0.0	0.0	その他の妊娠、分娩及び産後	91.0	69.5	133.1	49.6	
	内耳疾患	26.9	37.0	32.2	23.2	単胎自然分娩	10.0	8.4	5.8	9.0	
IX 循環器系の疾患	-	3,860.6	3,754.9	2,932.7	2,602.4	妊娠高血圧症候群	9.9	2.9	3.4	0.0	
	(心疾患(高血圧性のものを除く))	977.9	985.4	910.6	876.9	流産	97.3	121.3	120.4	110.1	
	(脳血管疾患) (再発)	2,535.4	2,509.9	1,810.0	1,520.8	X VI 産後期に発生する疾患	122.1	69.9	139.0	115.0	
	その他の循環器系の疾患	309.0	224.0	185.5	180.3	X VII 先天奇形、変異	2,186.6	1,833.6	1,949.5	1,872.5	
	その他の心疾患	794.6	825.0	805.8	725.2	X IX 損傷、中毒及びその他の外因の影響	646.9	533.1	556.3	503.8	
	その他の脳血管疾患	882.7	960.3	712.0	539.0	その他の損傷、中毒及びその他の外因の影響	1,539.1	1,301.8	1,393.0	1,369.1	
	虚血性心疾患	180.5	161.5	106.1	152.0	骨折					
	高血圧性疾患	40.4	37.5	26.5	23.7						
	脳梗塞	1,649.7	1,551.4	1,098.0	983.4						

傷病分類別の外来受療状況の変化（県全体）

以下、傷病分類ごとに1日あたりの平均患者数を算出したところ、

- 以下の疾患等は、入院患者数は減少しているものの外来患者数は増加しており、以下のような要因が考えられる。
 - 新生物<腫瘍>・・・化学療法の外來移行、医療技術の高度化など
 - 妊娠、分娩及び産褥・・・産褥外來などの産後ケアの浸透など
 - 健康状態に影響を及ぼす要因および保険サービスの利用・・・健診事業の拡大など
- 上記の一方で、脳血管疾患等、入院同様に減少している疾患もある。

ICD分類	1日平均患者数（単位：人／日）			
	2014年度	2017年度	2020年度	2023年度
I 感染症及び寄生虫症	5,265	5,580	2,623	3,423
II 新生物<腫瘍>	11,138	12,910	12,853	14,709
III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	657	795	537	568
IV 内分泌、栄養及び代謝疾患	13,785	14,275	14,080	13,306
V 精神及び行動の障害	10,962	7,447	9,933	12,528
VI 神経系の疾患	3,960	1,904	3,415	2,443
VII 眼及び付属器の疾患	8,330	10,969	7,188	6,893
VIII 耳及び乳様突起の疾患	2,370	3,036	2,410	3,766
IX 循環器系の疾患	38,483	30,163	34,602	29,182
X 呼吸器系の疾患	16,607	16,904	11,984	19,503
X I 消化器系の疾患	37,181	33,106	29,531	35,801
X II 皮膚及び皮下組織の疾患	2,646	4,444	2,998	3,060
X III 筋骨格系及び結合組織の疾患	26,747	27,802	31,093	18,781
X IV 腎尿路生殖器系の疾患	9,160	7,759	7,579	10,458
X V 妊娠、分娩及び産じょく	304	551	451	412
X VI 周産期に発生した病態	84	120	124	100
X VII 先天奇形、変形及び染色体異常	343	330	456	549
X VIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	1,169	1,231	1,173	1,587
X IX 損傷、中毒及びその他の外因の影響	8,503	8,331	7,224	5,998
X X I 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	16,672	18,804	29,398	26,243
X X II 特殊目的用コード			134	912

(参考) 傷病名別の外来受療状況の変化【詳細】 (県全体)

ICD分類	傷病名	1日平均患者数 (単位: 人/日)				ICD分類	傷病名	1日平均患者数 (単位: 人/日)				
		2014年度	2017年度	2020年度	2023年度			2014年度	2017年度	2020年度	2023年度	
I 感染症及び寄生虫症	-	2,632.3	2,794.1	1,311.2	1,712.1	X 呼吸器系の疾患	-	8,307.1	8,453.1	5,990.9	9,752.0	
	その他の感染症及び寄生虫症	628.8	456.1	379.9	478.0		その他の呼吸器系の疾患	1,476.6	1,824.2	1,501.2	3,511.2	
	結核	21.9	7.6	3.0	14.0		気管支炎及び慢性閉塞性肺疾患	511.3	322.1	234.6	309.2	
	真菌症	435.0	699.0	243.5	280.1		急性気管支炎及び急性細気管支炎	1,139.5	1,527.5	758.3	1,399.6	
	細菌感染症	399.1	568.3	177.9	432.6		急性上気道感染症	2,826.4	2,886.2	2,197.1	2,974.5	
	皮膚及び粘膜の病変を伴うウイルス感染症	1,147.6	1,055.3	507.7	506.3		肺炎	75.5	94.6	44.9	92.2	
II 新生物<腫瘍>	-	4,020.8	4,662.9	4,701.7	5,397.4	X I 消化器系の疾患	-	18,588.5	16,551.6	14,768.0	17,901.5	
	(悪性新生物<腫瘍>)(再発)	3,097.8	3,591.7	3,451.5	3,911.7		う蝕	4,103.7	3,771.9	3,515.2	3,442.4	
	その他の悪性新生物<腫瘍>	1,955.0	2,000.7	2,084.4	2,574.0		その他の歯及び歯の支持組織の障害	4,681.7	3,111.7	2,388.7	2,288.1	
	胃の悪性新生物<腫瘍>	284.0	506.5	347.1	296.9		その他の消化器系の疾患	2,010.6	2,652.6	3,018.1	1,981.8	
	気管、気管支及び肺の悪性新生物<腫瘍>	298.1	345.1	451.4	397.5		胃炎及び十二指腸炎	1,141.6	917.9	960.3	500.3	
	結腸及び直腸の悪性新生物<腫瘍>	556.7	736.1	569.4	647.3		胃潰瘍及び十二指腸潰瘍	297.5	211.8	207.3	131.6	
	良性新生物<腫瘍>及びその他の新生物	925.5	1,067.0	1,247.6	1,484.5		肝疾患	309.7	298.9	342.0	302.4	
III 血液及び造血系の疾患並びに免疫機構の障害	-	328.3	398.3	269.8	283.8	X II 皮膚及び皮下組織の疾患	-	2,645.6	4,444.2	2,998.0	3,059.6	
	その他の血液及び造血系の疾患	72.6	117.3	58.4	99.6		X III 筋骨格系及び結合組織の疾患	-	13,372.4	13,904.1	15,543.7	9,389.4
	貧血	255.7	279.8	208.7	184.3			その他の筋骨格系及び結合組織の疾患	6,139.6	5,084.3	6,406.6	4,303.4
IV 内分泌、栄養及び代謝疾患	-	6,891.3	7,136.9	7,041.7	6,654.4	炎症性多発性関節障害		678.7	813.1	789.5	668.3	
	その他の内分泌、栄養及び代謝疾患	3,004.2	662.9	684.0	705.1	骨の密度及び構造の障害	751.9	1,097.2	1,063.2	853.6		
	甲状腺障害	630.1	460.7	497.9	674.2	脊柱障害	5,804.4	6,903.4	7,290.3	3,566.4		
	糖尿病	3,259.5	3,654.2	2,796.6	3,096.3	X IV 腎尿路生殖器系の疾患	-	4,580.7	3,880.2	3,789.5	5,229.9	
	糖尿病	3,259.5	3,654.2	2,796.6	3,096.3		その他の腎尿路生殖器系の疾患	993.8	821.0	966.8	1,407.7	
VI 神経系の疾患	-	3,960.2	1,903.8	3,414.5	2,442.5	X V 妊娠、分娩及び産後	-	152.4	275.7	226.0	206.2	
	その他の神経系の疾患	3,960.2	1,903.8	3,414.5	2,442.5		その他の妊娠、分娩及び産後	93.5	249.4	154.4	171.0	
VII 眼及び付属器の疾患	-	4,163.5	5,485.3	3,594.9	3,447.3	単胎自然分娩	28.7	6.4	2.6	1.7		
	その他の眼及び付属器の疾患	3,236.5	4,091.4	2,740.9	2,811.0	妊娠高血圧症候群	11.3	6.9	20.8	5.2		
	白内障	929.9	1,392.7	852.4	634.9	流産	17.9	13.0	47.3	28.2		
	VIII 耳及び乳突突起の疾患	-	1,185.9	1,520.2	1,203.3	1,882.4	X VI 産産期に発生する疾患	-	83.9	119.9	124.1	100.1
		その他の耳疾患	285.2	272.1	523.1	753.0		X VII 先天奇形、変異	-	342.9	330.2	456.3
その他の中耳及び乳突突起の疾患		130.9	120.1	9.9	116.4	X IX 損傷、中毒及びその他の外因の影響			-	4,251.2	4,163.0	3,610.2
外耳疾患	180.2	330.5	276.6	370.7	その他の損傷、中毒及びその他の外因の影響		2,958.4		2,762.8	2,463.4	2,069.6	
中耳炎	354.0	531.6	147.7	353.4	骨折		1,293.2	1,405.5	1,150.4	928.6		
IX 循環器系の疾患	-	16,896.4	13,278.3	15,065.8	12,813.1							
	(心疾患(高血圧性のものを除く))	2,258.9	2,009.8	2,533.7	2,589.6							
	(脳血管疾患)(再発)	2,433.2	1,599.1	1,936.0	962.5							
	その他の循環器系の疾患	781.9	309.3	344.3	244.8							
	その他の心疾患	1,362.4	1,305.7	1,644.2	1,621.5							
	その他の脳血管疾患	453.7	456.7	646.4	364.8							
	虚血性心疾患	900.5	701.3	888.1	972.0							
	高血圧性疾患	11,418.0	9,360.4	10,254.6	9,015.6							
	脳梗塞	1,978.2	1,141.9	1,289.4	597.9							

【入院】

- ◆ 長野県の患者数及び受療率の推移をみると、入院患者数・外来患者数ともに減少傾向である。受療率は、入院受療率は減少傾向あるが、外来受療率はほぼ横ばいの状況である。
- ◆ 3年ごとに行われる患者調査で公表されている入院受療率のみ変化をさせて、入院患者数の将来推計を算出すると、推計結果は年度ごとに変動するとともに、現時点で最新の2023年受療率を用いた値が最も患者数が減少する推計となる。
- ◆ 上記の要因は、
 - ◎がん医療や白内障治療等の外来移行
 - ◎地域医療構想等の機能分化推進によるリハビリの強化および在院日数の短縮化 等、そのほかにも複合的な要因により生じていると考えられる。
- ◆ 今後もさまざまな要因により入院受療率が低下する可能性があることも考慮したうえで、今後の医療圏内の医療提供体制について議論する必要がある。

【外来】

- ◆ 外来の受療率については、在院日数の短縮化という要素がない分、総じて入院受療率よりも各調査年度の外来受療率の変化は少なく、人口構造の変化とともに今後の需要は減少する見通しと考えられる。
- ◆ がん医療、産科、健診といった領域においては入院患者数は減少しているものの外来患者数は増加しているが、脳血管疾患等、入院同様に患者数が減少している疾患もあるなど、疾患ごとに入院の受療状況と外来受療状況では状況が異なる。

- 現行の地域医療構想に関するご意見として、
 - ・ データに基づく議論が必要
 - ・ 県には地域の医療の実態がわかるデータを出してほしい
という意見をいただいたところ。



- ◆ 地域の医療提供体制を表すデータの一例として、入院・外来のそれぞれの受療率※等の経年の推移を分析した内容を共有。
- ◆ 今回は一例として受療率であるが、今後県としてデータ分析体制を強化していく中で、どのようなデータ提示が必要なのか等について、ご意見いただきたい。

※受療率

推計患者数を人口10万対であらわした数

受療率（人口10万対）＝推計患者数/推計人口×100,000